

あどばけいと

HSK

2018年9月号 No.211 [September] 定価 100円

1973年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻番号558号

発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会

発行日=2018年9月10日(毎月10日発行)

編集者=我妻 武

◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ
〒063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F

TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

ホームページ <http://npolife.net/>

あどばけいと【advocate】=すべての人がもつ権利を、障害などさまざまな理由で行使できない状況にある人に代わり、権利擁護のための活動を行っている人々の事。

特集

共同連モンゴル大会 in モンゴル

P4~5



ヤマト福祉財団主催 パワーアップフォーラムに参加して

こころや 田中 伸和

平成30年8月3日(金)“就労継続支援A型事業所の未来”、8月4日(土)“「はたらくNIPPON!計画」A型フォーラム IN札幌北海道からA型事業所の果たす役割について”がアスティ45を会場にし、2日間の日程で開催された。私は2日目の分科会3「誰もが当たり前で働いて生きていける町へ」に参加し、そこではエフピコグループ特例子会社エフピコダックス株式会社の且田久美さんの講演を聞く事ができました。且田さんは“互いに一人の社会人として向き合い、障害当事者にも企業の一員としての自覚をもってもらわなければ困る。その代わり、信じて誇りの持てる仕事を任せている”と言っていました。だが、そのためには職員の支援力、教育力をつける必要があり、主にプレゼン力や相手に対しての深掘り力が必要であると。配慮をしすぎると逆に差別になってしまう。ただ、無理をさせすぎないようにする必要もある。このような支援力がないと事業は成り立たないといった事を話してくれました。また、全体ミーティングでは「A型事業所の必要性・課題・希望A型事業所の果たす役割」というテーマで報告やディスカッションが行われました。主な意見として、「A型の制度が出来た時は、A型はあくまで中間的就労の場であり、一般就労への移行は推し進めていなかったが今は変わってきている。」「これからのA型事業所は資本主義に



向かっていくのか、福祉的なプロフェッショナルを目指すべきなのか。」「A型事業所から訓練を経て特例子会社に入った人が、以前とあまり変わらない待遇で働いている話もあるが、それにははたして意味があるのか。」「皆が合理的配慮の出来るような社会になるまでA型事業所は必要。」など、A型事業所の課題や今後の役割について様々な意見が出ました。今回参加した感想として、自分はライフしか知らないのでもライフの感覚と違う事には違和感を覚えてしまいます。教育、指導、成長といったキーワードが多かった事に対しても違和感を覚えます。色々な話をきき、良いも悪いも含めて色々な思いが沸きました。ただ、違った価値観や感覚の話を聞く事ができ、新しい出会いもありました。その機会をいただいた事に感謝をします。思った事は見習い、実践し、成長していきたいと感じました。

参加者感想

もじや 永島 勝章

先日、2日間に渡りパワーアップフォーラムに参加をしました。

1日目の「A型事業所の未来」という事で、一般企業との連携によっての就労促進や一般就労と福祉的就労・総合移動の促進の話が印象に残りました。

2日目の分科会で、A型2事業所から就職決定後も当事者に手厚く支援する事業所と、A型の中で技能を身につけ独立を応援をする事業所の報告があり、現実的に成功した当事者や、生活と仕事の両立がなかなか難しい当事者の事例があり、最後の質問と意見の中で、もし、就職後に挫折をしたリスクを当事者に追わせる事を考えると等の意見もあり、改めて今僕が働いている共働事業の必要性が実感できた、2日間になりました。

元気ジョブ 小形 忠寛

毎年、全国各地で行われている「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」は、元気ジョブが障害者事業所の現況を把握する上でとても大切に思っ、いつも関心をもっています。今回の内容は、A型事業所のあり方やA型に通う障害者の働き方などがテーマだったと思います。

驚きだったことは、福祉的就労が世間的に何か悪い印象かの如く、今後はA型でも「一般就労へ促進していく」と厚労省の方が話をしていました。A型の精神障害者には、一般企業に勤めていた方も多数います。人間関係が原因でという人は少なくはないでしょう。だとすれば、サポートできる人を配置し、働きやすい環境整備をすることが必要だと思います。企業の障害者雇用率をただ単に上げるだけでなく、相談員の配置を義務付けるなどの法改正が必要ではないでしょうか。

■ 8月3日(金)札幌会場で当事者の声として、リサイクルプラザ発寒工房の大井敏彦さんが発表者として参加しました。以下の文章は発表時のものになります。

みなさんこんにちは。私は大井敏彦といます。現在60歳でNPO法人札幌障害者活動支援センターライフの事業所であるリサイクルプラザ発寒工房というところで働いています。今年の4月で定年になったので嘱託スタッフとして現在働いています。

私は職場の近くのグループホームで生活をしています。母は昨年倒れてからグループホームに入居し、父は闘病の末3年前になくなり、姉は姉の家庭があったので共同住宅で生活することとなりました。

51歳の時、両親が認知症の検査を受けた際、私も一緒に検査を受けたところ発達障害の1つであるアスペルガー症候群の診断を受け、コミュニケーション不足や人から言われたことを理解するのに時間がかかるという障害がわかりました。障害がわかる以前は、一般就労をしていましたが人間関係がうまくいかなかった理由がよくわかりました。

そのため、相談機関の人と相談して就労移行支援事業所あるばに通所することにしました。これからは障害を隠さず働いていこうと思い、現在の発寒工房を紹介してもらい面接を受け働くことになりました。発寒工房は札幌市から委託を受けた環境事業です。競争入札の委託事業のため、入札状況により会社が変わる可能性があるので入札時期には心が落ち着きません。仕事の内容は、市民からリサイクル収集をされた家具や自転車を修理、修繕してリサイクル品として札幌市内の厚別リユースプラザとリサイクルプラザ宮の沢の2か所で販売しています。

私はその中で、家具の修理を担当しています。保管庫の中で家具や自転車の整理、保管庫から作業場へ運ぶための積込などもしています。また、厚別リユースプラザのイベントに手伝いに行ったりと色々なことに積極的に取り組んでいます。

一緒に働く職員とは何度も衝突したことがあります。その時には支援をしてもらっている移行支援事業所あるばとライフの職員と3者面談をして話し合いで解決をしてきました。一緒に働く他の障害者スタッフと衝突したこともありましたが、その時も職員と一緒に話し合って解決をしてきました。色々ありましたが、今は毎月私達がテーマを決めてやるミーティングがあり、障害者の差

別に関するDVDを見たり、仕事面・生活面での良かったこと、反省点、次回の目標などをみんなで話し合っています。

このミーティングを始めてからお互いにコミュニケーションがスムーズにできるようになりました。一般就労をしていた時と今の働き方で大きく違うと感ずることは、何か問題があったり、できないことがあっても相談したりカバーしてもらったり、休みの取りかたにも理解があるのでとても働きやすいというところです。ただ、それに甘えるだけではなく、自分達でできることはしっかりとやっいていこうという思いもあります。

私達障害者はひとりでは生きていきずらいので支援者が必要です。時には家族からも支援をうけます。私もたくさんの人達に支援をうけてきました。私は金銭面がうまくできないところがあるので、姪っ子には金銭管理をお願いしていたこともありましたが、姉は自分の家庭と生活がある中で私の支援をしてくれています。家族にはとても感謝しています。現在はライフのスタッフに金銭面は相談しているので、金銭面はとても安定しています。今までもこれからたくさんの人達に支えられていくんだということを感じています。

最後になりますが、これからの私の仕事や生活に対する不安はたくさんあります。でも、ライフは障害のある人もない人も共に働き、共に生きていこうというところです。

私も含めて障害のある人みなさんが安心して働いて生活できる社会になればよいと心から願っています。ご清聴ありがとうございました。





2018年第35回共同連全国大会が、第5回アジア障害者国際交流モンゴル大会とあわせての開催に参加してきました。

7月24日(火)札幌から成田空港に。その後、MIATモンゴル航空にて、ウランバートルまでの旅。成田の出国ゲートを抜け搭乗口前にて、共同連の参加者17名と合流し、いざモンゴルへ。空港からは、バスで移動し、現地時間で21時過ぎにホテルに到着。移動時間が長く疲れました。ホテルは、ロビーに行くまで階段があり、アルミの簡易スロープが設置されていましたが、その後部屋に向かうエレベーターホールにいく前にまたも階段。この階段は直角に曲がる形状でスロープが設置出来ず、車イスでの参加者は抱かれて移動するしかないという状況でした。モンゴルはバリアフルばかりと聞いていましたが、まさにその通りでした。

2日目、朝、バスに乗り込み「国立リハビリセンター」へ。ここは、職業訓練校のような場所で、義足や洋服、木製のイスなどを作る施設となっていました。約60人での見学だったため、翻訳用のイヤホンが配られたものの、説明する方と説明を聞く私たちの距離が離れすぎの状況に。さっきの説明は、きっとこの教室のことだろうと推測しながらの見学となりました。その後、ホテル会場に戻り、いよいよ大会開始です。ここでも翻訳用のイヤホンが配られましたが、イヤホンからの同時通訳はなぜか聞き取りにくい。また、同時通訳できず、お話の後に通訳が流れるという形もあったため時間がかかるものでした。モンゴルの障害者対応などの説明があり、貧困差があるため仕事などに関わっていない障害者が多いという話もありました。

3日目、分科会。ほぼ報告で終わりましたが、授産品の交流をはかり、フェアトレードを作っていく提案などありました。午後からはシンポジウムの時間。モンゴルの障害者白書についてのお話からはじまりました。他国の良い所を取り入れれば、進んだ国を乗り越える可能性があるので、モンゴルも障害に対する整備が進むことを願う。また、障害者関係の法整備に、当事者抜きで決めるのは無理がある。当事者の意見が反映されるべきであるということなどの話がありました。夕食の親睦会では、通訳等に関わってくれた日本語学校の生徒さん達とお話ができ、「モンゴルでは、このような国際大会はほとんどないので、いい経験でした。」との話も聞けました。ただ、モンゴルの当事者と交流する機会がなく残念でした。

4日目は、観光です。ノミンデパートにて、買い物。その後、草原やゲルなど車窓を楽しみながら、チンギスハーン像。またまた移動して、ゲルと動物がいる施設にて、夕食を食べ草原を満喫しました。

5日目、帰国の予定が、台風が日本を直撃。そのため、13:35のフライトが次の日の7:05に遅延が決まり、急遽ホテルを確保し、7月29日(日)に帰国しました。

この大会では、モンゴルのバリアフルな部分と、なかなかバリアフリーが進まない現状を見ました。今、建設ラッシュで、24時間工事の音がしていました。暖かい季節が短いため、建築工事は3カ月のみ。その後放置されるため、工事もなかなか進まないとの話でしたが、今後のモンゴルの発展に期待したいと思いました。



現地時間20:15すぎ。ウランバートル空港に到着。
なんと白夜。まだまだ明るくてびっくりでした。



分科会「労働」
モンゴル・韓国・日本それぞれ政府の動き説明など



国立リハビリセンターの一室。
洋服などを作っている部屋でしたが、夏休みのため、
障害当事者は居ませんでした。



モンゴル料理なのか、羊肉のカレー風味。
海がないので、ほぼ肉料理を食べているとのことでした。



ゲルのある草原にて。たずなを渡され、一人で乗馬



草原のゲル
車イスの方たちはこの中で、私たちは施設の2階にて
羊の塩釜蒸をいただきました。

■熊本震災から学ぶ

発寒工房 西田 大作

7月12日(木)こころやにて、熊本学園大学 花田昌宣先生をお招きして、2016年4月14日に起った熊本地震についてお話をいただいた。被災者当事者である先生のお話は、どんな媒体で見聞きするよりも力強く明確に僕たちに課題を示してくれた。

まずは当時の状況からお話を聞かせていただいた。2016年4月14日21時26分、縦揺れの震度6の地震、強烈に突き上げられた時、さすがの先生もこれには驚きと恐怖を感じたそうだ。そして震度7～5までの地震が続く、余震も何週間も続いたそうだ。それに恐怖を感じた多くの人々は近くの指定された小中学校の体育館に避難する。しかしその中に障害者はいない、特に身体障害者、車椅子の人たちだ。花田先生を始め教員と学生は熊本大学のホールを開放し障害者を受け入れた。

死者数264名その中で建物の倒壊等で亡くなった方は50名、残りの214名は、地震のショックにより精神的に体調を崩したり、仮設に移り孤独を抱え不安を感じ自殺をする人などいわゆる関連死だそうだ。いかに被災された方のメンタルケアが大切かをお話いただいた。今でも3万人ほど自宅に戻れない人がある。

花田さんは共同連の仲間と共に被災者障害者支援センターを立ち上げた、これには石澤さんも参加している。まずは障害者の安否確認、それからメンタルケアのためにも電話相談、その中で物資を届け生活の再建までつなげる。被災者は自分から助けを求めることがなかなか出来ないそうだ、被災者障害者支援センターは自ら被災者のもとへ赴き、粘り強くアプローチして被災者の救い出しに徹した。そんな経験から、すぐにヘルプを求められる場所、震災が起こる前の旗揚げが必要と先生はおっしゃっていた。

■ネットワーク（縁）作りの大切さ

ボランティアも全国からたくさん来てくれるが、2、3日の援助だけではなく、やはり長期的に共に再建してくれるネットワークづくりが大切、何かあった時には、遠く離れていても共に支え合う仲間たちだ。震災が起こると、障害者のいき場所がなくなる、そんな障害者を排除せず地域全体で受け入れ地域に住む住人達一丸となって、災害を乗り越えられるような、関係性を作っておくことが災害に備える上で大切なことだ。この他にも避難所での生活について



写真左 熊本学園大学 花田 昌宣氏

もお話していただいた。

熊本学園大学では、「被災者を管理しない排除をしない」を念頭に運営していたそうだ。もう一つに衛生管理の徹底、ノロウィルスやインフルエンザは瞬く間に人に感染する、トイレ掃除など2時間おきに掃除をしたそうだ。物資の調達、水や食べ物の調達、障害者の介助、たくさんの人たちの手を借りて共に助け合い日々を乗り越えたそうだ。「必要とする人がいる限り我々の都合で避難所は閉じない」こう大学の避難所は宣言した。この他にもたくさん貴重なお話を聞かせていただいた。

先生のお話を聞いて、ライフでも備えるべき課題もたくさん見えた。暮らしづくり委員会と、縁づくり委員会の連携で、地域ぐるみの備えを実現できればと感じた。このようなお話をもっと地域の人含めて聞いていただきたいと思った。そして先生もおっしゃっていたが、災害時、自分やライフがどう動くのかシュミレーションしておくことが大事だ。

今回、貴重なお話を遠くはるばる熊本から札幌まで来ていただき、お話を聞かせていただき本当にありがとうございました。最後に7月の西日本水害で被災された皆様にお見舞い申し上げます。1日でも早く生活の再建が出来ますように。



熊本震災直後の様子

Care

蘭結のヘルパープッチ情報

宮津 憲司

皆さん、ストレス発散出来ていますか？

日々、生活していると、精神的・物理的な要因で何かしらのストレスを感じるとは思いますが、「病は気から」という言葉もありますように、ストレスは様々な病気の原因になることは周知の事実です。

趣味や旅行、音楽など、ストレスの発散方法は人それぞれだと思いますが、自分にあった発散方法を見つけ、ストレスを溜め込まないようにして、健康的な生活を続けましょう。

Sales

たねやからお知らせ

突然ではございますが、な…なんとこのたび! たねやのWEBショップがOPENします! たねやで厳選したよりすぐりの商品を皆様にお届けするWEBショップとなりそうです。ちょっとしたプレゼントにもかしこまった贈り物にもぴったり! なオシャレで素敵なギフトを準備中! 少しずつですが新商品やオリジナルTシャツもネットで販売していきます! もちろん店頭でも購入できますのでお近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください! WEBショップOPENは10月中旬予定です。日程が決まりましたらライフHPやたねやFBなどで告知しますのでみなさんお楽しみに〜!



Art

生活介護 こころや



8月に入って天気の良い日、五天山公園で散歩してきました。

Cook

ひだまり レシピ

「ビールのつまみに最高♥♪ 揚げないゴーヤの唐揚げ」

材料 ゴーヤ …… 1本 片栗粉 …… 大1
★醤油・酒 …… 各大1 油 …… 大2
★にんにく・生姜チューブ …… 各1cm

作り方

- ①ゴーヤを半分に切り、種・わたを取り、5mm幅に切ります。(塩水での苦み取りは不要です。)
- ②ビニール袋に①と★を入れ、味付け20分ほど漬けておいて下さい。(下味をしっかりと付けると苦みが減!)
- ③ゴーヤを新しいビニール袋に入れ、片栗粉をまぶし、空気を入れて振り回すと、キレイに付きます。
- ④フライパンに油を熱し③を揚げ焼きにコンガリ焼けたら裏返しに、両面サクリ焼けたら出来上がり♪

《コツ・ポイント》

フライパンで焼く時に、ゴーヤを入れたら焼き色が付くまで放置して下さい。くっついていても裏返しにする際、菜箸で切り離せます♪



■7/12 旭山動物園ツアーの様子



- 旭山動物園に行けて良かったです。

こころや 新井田 琴江

- 朝から少し寒く感じられる1日でした。動物たちも少し活発になっていて動きが大きくなっていた感じがした。特にかばや狼、チンパンジーなどが活発的でした。

こころや 山口 敏明

- 最初は寒かったけど、着いたらけっこう暑い汗をかきながら動物を見ました。ラーメンもおいしかったし、珍しい動物を見ました。

こころや 佐藤 賢治

- アザラシが筒の中を泳ぐ姿やホッキョクグマが接近して歩いている姿が見れて楽しかったです。オオカミの遠吠え凄かった。カバが水中で泳いだり回転する姿が近くで感じられた。途中で雨降ってきましたが思い出になりました。

ひだまり 松橋 勇祐

- みんなでワイワイ動物園はとっても楽しかった!おいしいものもたくさん食べて、お土産も買って充実した1日になりました、スタッフの家族のご参加もありがとうございました。

本部 坂本 倫子



■8/10 コカコーラ工場見学ツアーの様子



- 工場は札幌ドームの敷地2倍ぐらいで見学コースがあります。とくに出荷システムはクレーンとコンピューターで4日間で出荷するそうです。とにかく巨大な操作にびっくりしました。

こころや 石井 美之

- コーラの工場の見学を勉強になりました。

こころや 大堀 昌彦

- すべてがオートメーション工場なので清涼飲料水でした。毎年つねに飲料水を作り発想されているのにおどろきました。また見学にしてみたいです。

こころや 山口 敏明

- とてもたのしくべんきょうになった。またいつてみたいとおもいました。あとこうじょうの中がひろかった。あとジュースもおいしかった。

こころや 佐藤 賢治

- コカコーラに行ってきたのしかった。コカコーラをのみました。

こころや 川村 良一

- 工場ではジョージアを見るはずでしたが、製造があつという間に終わったため見るができなかったと思います。できたてのコーラを試飲してコーラができるまでの映像を見て無事に終了しました。

ひだまり 藤井 孝雄



ライフ事業所一覧

◇NPOライフ本部事務局

TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

作業 共働事業所きばりや 就労継続支援事業A型
TEL 011-644-5533 FAX 011-613-9323

生活 こころや 生活介護事業
TEL 011-614-1871 FAX 011-613-9323

〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F

飲食 コン・プリオひだまり 就労継続支援事業B型
TEL 011-615-4131 FAX 011-615-4132

〒063-0812
札幌市西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F

販売 共働サービスたねや 就労継続支援事業B型
TEL 011-613-0611 FAX 011-644-0088

介護 ヘルパーステーション繭結(ゆい) 指定居宅介護事業
TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F

営業 アウトソーシングセンター元気ジョブ 札幌市委託事業
TEL 011-596-6581 FAX 011-596-6582

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園103

印刷 共働事業所もじや 札幌市障がい者協働事業所
TEL 011-596-6583 FAX 011-596-6584

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園104

相談 相談室らいふ 相談支援事業所
TEL 080-6076-1474 FAX 011-596-6584

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園203

飲食 Cafe de Kibariya(カフェ・ド・キバリア) 就労継続支援事業A型
TEL・FAX 011-758-6533

〒060-0808
札幌市中央区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内3F喫茶コーナー

環境 リサイクルプラザ発寒工房 札幌市委託事業
TEL 011-662-7815 FAX 011-662-7816

URL <http://www.reuseplaza.jp/10hassamu.html>

〒063-0835
札幌市西区発寒15条14丁目2-30

環境 札幌市リユースプラザ 札幌市委託事業
TEL 011-375-1133 FAX 011-375-1155

URL <http://www.reuseplaza.jp>

〒004-0003
札幌市厚別区厚別東3条1丁目1-10

9月

イベントカレンダー

8日 9日
土 日

ライフ本部

下水道科学館フェスタ2018
札幌市下水道科学館
9:30~16:00

15日
土

札幌市リユースプラザ

ともども秋祭り
10:00~15:00

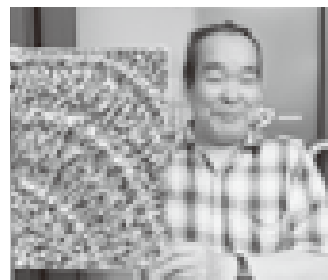
最新の情報は、
ホームページを
ご覧ください！

<http://www.npolife.net>

NPOライフ

検索

松アート
世界へ
羽ばたく



松村亨さんの『松アート』がパラリンアート応援
企業の年賀状デザインに採用されました。

何日もかけて完成した自信作です。もしかすると、
松アートの年賀状を皆さんも目にするかもしれ
ません。

自由な発想の創作が得意な松村さん。『選ばれて
とても嬉しかった。これからTシャツのデザインな
どもやってみたい』と笑顔いっぱいでした。

2018年4月に非営利組織評価
センター(JCNE)が提供する
組織評価制度において、第三
者組織評価(基礎評価)の認
定を受けました。



詳しい詳細はこちらのHPをご覧ください。
■非営利組織評価センター
<https://jcne.or.jp/org/n2018e046/>

アドボケイト購読料 濱中 邦彦 星 明美 村中 一美 遠藤 昭 宇田川 利夫 和島 正博 田野 政勝 戸沢 泰子
(特非)シゴトシンク北海道 (特非)自立支援センター 歩歩路

寄付金 遠藤 昭 宇田川 利夫

賛同会員会費 佐々木 あゆみ 西村 正樹 和島 正博 高橋 亨 (特非)自立支援センター 歩歩路

協賛団体会員費 (特非)シゴトシンク北海道 **ビル建設基金** 石澤 利巳

ライフカンパのご案内 ～だれもが地域であたりまえに暮らし、働くことができる社会を作ろう～

ライフは障害の種別を超え、「働きたい」と願う人の気持ちを繋ぐために25年以上活動を続けてきました。これからも、障害のある人ない人をはじめ、社会的に不利な状況にある人たちも含めた、共に働き共に生きていく「社会的事業所」づくりをすすめていきます。ライフの活動に共感して下さる皆様方からの応援を是非ともお願いいたします。

お振り込み先	口座番号/加入者名
北洋銀行	琴似中央支店 普通預金 4606735 特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ 理事長 我妻 武
北海道信用金庫	琴似支店 普通預金 3296744 特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ 理事長 我妻 武
ゆうちょ銀行	振替口座 02710-4-63485 NPO札幌障害者活動支援センターライフ

月替わりコラム **ねこのきもち 蘭結 宮津 チャイ**

蘭結 宮津 憲司

宮津に拾われ、もう7年か…。俺も7歳(ヒト年齢では44歳?)のオッサンになっちまった。茶色いから「チャイ」?安易な名前を付けやがって…。もうちょいカッコイイ名前にしてほしかったぜ。

主は「ヘルパー」という仕事をしているらしいんだが、毎日、何時頃帰ってくるんだか?さっぱり読めん。たまに帰ってこない日もあるし…。腹は減るし、遊んでくれんしで、ストレス溜まるわ。

そのせいか、先日、下痢になるわ、オシッコ近くなるわ、血尿出るわで、病院連れてかれた。久しぶりに会った医者、こんな髭ボーボーだったか?マジ怖くて、威嚇して猫パンチ連打してやったぜ。髭医者の下した診断は「ストレスが原因の膀胱炎」ですかね。

「主、聞いたか?」注射2本打たれ、一週間、粉薬を飲み(こっそり主がご飯に混ぜてやがった。)、とりあえず、症状は落ち着いてよかったが、猫も人も一緒。「ストレス…舐めちゃいかんよ。皆さんも、自分に合った発散法で、ストレス解消してな。」

編集後記

お盆も終わり、猛威を振るっていた長い長い夏の暑さから長期一転、猛暑の厳しい季節もようやく終わりを迎え、秋刀魚や栗・松茸等、秋の味覚が美味しい季節となりました。早いもので、今年も残すところあと5カ月余りとなりました。これからもライフ全体いちがんとし精進して参りますので、どうぞ引き続き皆様の暖かいご支援・応援の程、よろしくお願い申し上げます。まだまだ体調の崩しやすい日が続きますが皆様どうか、お風邪等引かぬよう健康管理等には十分お気を付けて、お元気にお過ごし下さい。(鈴木 麻依)

あどばい
2018年9月号
No.211 定価 100円

2018年9月10日(毎月10日発行) HSK通巻番号558号 1973年1月13日第三種郵便物承認 発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会
編集者=我妻 武
◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ
〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
E-mail main_lifemail@npolife.net ホームページ <http://npolife.net/> 郵便振替口座 02710-4-63485